

労働問題研究会に依つて研究と試練を積みたる同志は、大正七年末鈴木梅四郎氏等労働協會を組織するに方り發起人たるを懇請せられ之れを諾したるも其後不可なる点を認めて去り、しみじみ労働組合運動は労働者自らの運動でなければならぬ事を痛感し、且つ徒らなる激語壯語は大向うの拍手喝采を博するも眞に忠誠なる社會奉仕の所以に非ず、一步は一步より實質に労働組合運動を進むるこそ、眞に天が我等に與へたる向上の一路也と確信し、茲に職工組合期成會系及び労働協會純労働者を打つて一九二〇年、煤煙裡より大阪鐵工組合は跳躍したのである、時漸く労働運動の盛んならんとする兆全國に旺盛し、新進氣鋭なる鐵工組合の成立は我國労働運動界に大なる刺戟を投じたものであつた。

斯くて大正八年五月十八日大阪鐵工組合大會並に講演會は中央公會堂に於て開催せられ、平井榮藏横田千代吉氏等交々に立ちて労働演説を爲し、飯田吉三郎片岡安長谷川柳太郎氏等の講演あり、續いて京大教授山本美越乃博士は約一時間に亘つて英國労働運動を詳論し純經濟的組合を唱道し大

阪鐵工組合の組織を賞讃して降壇、萬歳聲裡に散會したのは十一時であつた、斯くて鐵工組合は左の綱領を發表したのである。

一我等は愛國的精神に基き國体國狀に適合したる理想的職工組合を組織し以て労働問題の根本的解決を圖らん事を期す

一我等は勞資相互の理解に基く協調一致の力に依り我國産業の發達を圖らん事を期す

一我等は自治的精神の開發常識涵養及び技術の進歩を圖り以て我國工業界の革新に貢獻せん事を期す

而して其の事業としては

共濟組合 購買組合 出版事業 法律顧問 技術顧問 職業紹介

等を実行し、更に

組合病院 労働會館 労働保險

等の實現を企圖し、専ら理想論より實行を尙び、其態度飽迄も着實に、當時流行語の觀ありし階級鬭争の如きは出來得る限り否認し、寧ろ勞資相互